

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『持続可能な交通まちづくり —欧州の実践に学ぶ』

宇都宮浄人，柴山多佳児著

筑摩書房発行

2024年10月／1,012円(税込)

所蔵箇所：信濃町

地方都市の衰退や自家用車への依存が進む日本社会において、公共交通を軸とした持続可能な都市づくりの可能性を探る一冊。日本と欧州の成功事例を通じ、市民参加型の計画策定や、公共交通と土地利用の統合が地域活性化に寄与する様子を描き、交通とまちづくりを一体的に捉えることの重要性を論じている。

さらに、欧州で広がる「持続可能な都市モビリティ計画（SUMP）」を参考に、バックキャストイング手法を活用した戦略策定や、公的機関と民間企業の役割分担の再構築など、具体的な方向性を示している。

交通やモビリティは本来、まちづくり全体に関わる問題であり、公的主体には単体の事業性にとどまらない視点での計画策定が求められる。目の前で起きた問題をどう解決するかという視点に基づく「問題解決型」の交通政策から、将来世代にわたって高いQOLを維持するために「目的からの逆算型」へと転換し、計画の評価軸を見直すことが今後の交通政策において必要であると本書は提言している。（原）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『日本鉄道名所—勾配・曲線の旅』（全8巻）

宮脇俊三，原田勝正編

小学館発行

1986年8月～1987年4月

所蔵箇所：上野（一般公開中）

今回は、特集テーマを踏まえて、地図がふんだんに使用された所蔵図書を紹介する。

本書は、新幹線を含む旧国鉄と第三セクター鉄道の全線、および私鉄の主要路線の地図を地域別に全8巻でまとめている。特徴的であるのは、各線の「名所」を視覚的に表現するために、業務で利用されている「線路縦断面図」を一般向けに編集したものを掲載している点である。線路縦断面図とは、鉄道線路の高低差をわかりやすく示したものであり、勾配、トンネル、橋梁などが記された地図である。列車運転の計画・実施といった業務には不可欠なものである。この地図を参考にしているため、従前の平面図を中心とした旅行書とは異なった趣を呈している。本文では、各線の「名所」といわれる急勾配や長大トンネルなどを、列車に乗っているかのように紹介している。各巻に設けられた解説欄では、そうした「名所」に関する見どころが詳しく述べられている。

本書は刊行されて月日が経つが、鉄道旅行を楽しむさいの参考になるかと思う。資料室でご覧のうえ、旅行にお出かけいただきたい。（土方）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

